

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 焼津市立焼津東小学校 】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	焼津市立焼津東小学校 5年生 52名 6年生 51名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	障害のあるスポーツ選手との交流を通して、講演を聴いたり実演を見たり一緒に活動したりすることにより、「障害者＝特別な人」ではなく、自分と同じ存在として受けとめることができる。 また、自分とは異なる他者について理解し、お互いを認め合う気持ちの育成を図る。
5 取組内容	【総合的な学習の時間】 テーマ：福祉 「やさしい街づくり ～ <b>5</b> だんの <b>く</b> らしの <b>あ</b> わせ～」 ・住んでいる地域の現状について調査 ・福祉体験（高齢者疑似体験、車いす体験、点字体験など） 焼津市社会福祉協議会から講師を派遣＋会館見学



車イスを押すときゆっくり押して、進むときと曲がる時は声をかけました。声をかけないとびっくりしちゃうから、声は大事だと思いました。私のおばあちゃんも車イスを使っています。おばあちゃんにも車イスを押すときにゆっくり押して声をかけてあげたいです。ウエルシップは、エレベーターやトイレは車イスが入れるために広がっていて、助けを呼ぶボタンもありました。福祉は人にやさしいところがいっぱいでした。

## 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」

### ・パラリンピックとは？

パラリンピックの歴史、意義、価値、競技種目など

\*オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料を活用

### ・パラリンピック選手について

春田純選手について知る。

2012年 ロンドンパラリンピック出場



## ○義足のスプリンター「春田純選手」との交流学習

7月8日(木) 13:20~14:55

- (1) はじめのあいさつ、選手紹介
- (2) 講演 + 実演
- (3) 質疑応答
- (4) おわりのあいさつ、お礼の言葉



春田選手の話で、足を残すか切るかのお話が一番に残りました。自分で自分のことを判断する、切ると決めて決意したことがすごくかっこいいなあと思いました。そして陸上をはじめて大切な仲間存在に気付きました。私もクラスの仲間の大切さにもっと気付いて、もっとしゃべったり遊んだりして、もっとステキなクラスにしていきたい！

春田選手に足を切断したところを触らせてもらい、一緒に走ってもらいました。春田選手は障がい者になってもあきらめなかったところがすごいところだと思いました。ぼくは「何があっても絶対にあきらめない強さ」を学びました。

春田選手が「好きなことを見つけてがむしゃらに続けてみてください」と言った言葉が心に残りました。ぼくはサッカーが好きだから、春田選手が言ってくれたように、大好きなサッカー続けて努力していきたいです！

【道徳】

「世界最強の車いすテニスプレーヤー」の教材を通して、パラリンピックに関心をもつとともに、困難があってもくじけずに努力しようとする実践意欲と態度をもつ。

- ・国枝慎吾 → 車いすのテニスプレーヤー  
2012年 ロンドンパラリンピック出場

「何万球打ったんだ！」って、自分に言い聞かせて練習をしてきて、自分に自信があるから「オレは最強だ！」と言えるのだと思いました。ぼくも努力はしているけれど、ぼくの努力はまだまだだと思いました。ぼくは、国枝選手の努力にとってもあこがれました。

6 主な成果

○オリンピック・パラリンピックの歴史、意義、価値を知り、講演会を通して、特にパラリンピックについて理解を深めることができた。また、どのような種目があるのか、どのような障害を抱えた選手がどのように戦っているのか調べ、興味・関心が高まった児童が増えた。パラリンピック観戦をしたい、実際に戦っているところを見たいという思いが高まった。

○障がいをもちながらも、困難に立ち向かいあきらめずに努力し続けた義足アスリート「春田純」選手の講演会から

- ・春田選手の生き方に感銘を受け、自らの生き方を振り返り、あきらめずに挑戦していこうと前向きな気持ちで取り組んでいきたいという感想が多く見られた。
- ・15歳で骨肉腫になり、足を切断することを自分で決断した春田選手の話が一番心に残ったという感想も多かった。
- ・実際に一緒に走ってもらい、世界を舞台に戦ったアスリートのすごさを肌で感じる事ができた。

○障がい者も健常者も関係なく、世界で活躍しているアスリートたちの努力や挑戦を聞いたり見たりして、同じ人間として共に助け合おうとする共生意識が高まった。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

○6月24日：焼津市を走る聖火ランナーを応援

本校は、焼津市の駅南に位置し、聖火ランナーが走るコースに近いので、市からオリンピックのうちわをいただき、全校児童で応援に参加した。聖火ランナーが走る姿、市をあげて盛りあがる様子から、東京五輪への興味・関心をさらに高めた。



東京で開さいされる2回目のオリンピック・パラリンピック。私はオリンピックもパラリンピックもとても大切だと思いました。それは、「スポーツは、世界と未来を変える力がある」というふうに、スポーツってすごいな、オリパラって世界が平和になるんだなって感じたからです。聖火リレーは、見ていると思わず手を振りたくなくなって、応援したくなくなってしまふような迫力でした！

8 主な課題等	<p>○企画した際には、春田選手に体育館の中を走っていただく予定だったが、春田選手との打合わせにおいて、グラウンドで児童と一緒に走るよう変更した。グラウンドでの実演を行ったことで、下の2点が利点である。</p> <p>①児童が10人ずつ一緒に走ってもらい、全員が春田選手と走ることができた。それにより、全員が春田選手とコミュニケーションをとることができた。</p> <p>②グラウンドを走る方が、春田選手の速さがより実感でき、パラリンピック選手のすごさを体感できた。</p> <p>*天候も関係あるが、体育館では講演、足を触らせてもらう、義足を見せてもらう。グラウンドでは実演というふうに、2部制にするとよい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○他競技のパラリンピック選手の講演会があれば、さらに児童の興味・関心が高まると考えられる。</p>